意見交換会実施報告書（地区コミ単位）

【1班】

地区コミ	藤本地区コミュニティ協議会	参加人員	32人
開催日時	平成25年 8月 6日(火) 19:00 ~ 20:40		
開催場所	藤本地区コミュニティセンター		
出席議員 (担当)	議員名	出欠	担当
	谷津 由尚	○	班長
	瀬尾 和敬	○	
	江口 是彦	○	記録
	議員名	出欠	担当
	福田 俊一郎	○	
	福元 光一	○	司会
	徳永 武次	○	

意見交換の内容

(凡例 ◆地区の意見 ◇議員の意見)

1 藤本農村公園の名称変更について

《意見交換の概要》

- ◆ 「藤本農村公園」は、平成7年度から平成11年度までの「集落環境整備事業」で経産省の補助事業として公園整備された。歴史のある恒例の藤本相撲の道場も設置されている。近くには、薩摩川内市の景観重要資産第1号の指定も受けている「藤本滝」がある。この公園は、滝と一体化した地区の活性化の拠点として整備を行っている。滝の名称を主体にした公園「藤本滝公園」に名称の変更を行い、地域のシンボル、拠点として整備をしていただきたい。この公園を中心に活性化を図っていきたい。
- ◇ 「藤本農村公園」から「藤本滝公園」への名称変更、結論的に言えば可能。進め方としては、地元の意見を具体的に集約しながら、本庁建設整備課などと話を詰めていただきたい。条例変更になるので議会議決が必要なので、相応の期間が必要。
- ◇ 「農村公園条例」の中で15カ所の公園が指定されているが、「農村」が付いていない公園も5カ所ある。地元の皆さんの意向が確認され、所定の手続きにより名称変更は可能。

2 高齢化地域対応の「ゆうゆうバス」のルート変更について

《意見交換の概要》

- ◆ この件については、藤本地区の環境整備の根幹をなすものであり、平成22年の議員との意見交換会や市長当局との「ふれあい市民会議」などでも要望を行っている議題である。
高齢化が進みゴールド集落が増える中、市道「田之頭線」「菖蒲ケ段・岩下線」を迂回する「ゆうゆうバス」のルート確立を強く要望する。
途中に幸橋（石橋）があるためルート設定ができない状況もある。
この際、藤本地区の永年の念願である藤本地区の基幹巡回道路を新架橋を含め整備して欲しい。この道路が完成すれば「ゆうゆうバス」のルートに「藤本滝公園入口」のバス停も設置していただきたい。
- ◆ 地域での自助、公助を進めるためにも、ハード整備など市の公助が必要だ。
- ◇ 私たち議員でもルートを調査し、検討した。橋だけの問題ではなく、道路も狭いところが何か所かある。中型ではなく、車体を小さくする必要があるのでは。車両入れ替えには時間がかかるが、商工振興課でも、国、県への助成の申請など進めているところである。
助成が受けられ、車両の入れ替え等が実施できれば、ルートの変更も可能と考えている。
- ◇ 要望が通って、バスが走るようになって、乗る人はいないという懸念はないか。

《主な要望等》

- ◆ 高齢者が増える中で、通常の定期バスの運行が望ましいと考えている。

- ◆ 今回のルートは、同じ道を折り返し運行なので、巡回方式にして欲しい。

3 藤本小学校跡地利用について

《意見交換の概要》

- ◆ 小学校の閉校後、校庭・体育館は地域コミで管理使用しているが、通常は校舎内への立ち入りはできず、カビが生えている状態。市としても、企業の誘致等の対応を要望する。
ただし、小学校施設の売却はしてほしくない。
悪い例が、元市比野中学校の施設がある民間企業に売却の結果、現在は荒れ放題になっており、行政（市）も何の介入もできない状況にある。
地域の老人が使えるような施設、介護施設などへの利活用を考えてほしい。
- ◇ 大変悩ましい問題。市としては、地方交付税なども将来少なくなるため、管理費など節減する必要から、閉校後の学校施設は早い時期に民間などへ譲渡したい考えである。
- ◇ 市としても、企業誘致などのため予算措置なども思い切って行い、紹介者を含む情報収集から積極的に取り組んでいる。
- ◇ 跡地の利活用については、藤本だけでなく、東郷なども含め、全市的な問題。教育委員会、市当局は明確な方針を示すべき。
- ◆ 超高齢化の到来に備えて、跡地を「年寄りのオアシス」として、活かしたい。
- ◆ 高齢者のための「ふれあいサロン」など気軽に使えるような場所として整備できればと考えている。
- ◇ 都会などでも、学校跡地利用の事例がある。保育園を併設したり、元気高齢者も含めた高齢者施設としても広く活用されている。地元の皆さんで考えて、市へ提案をされ、是非とも実現してほしい。

《主な要望等》

- ◆ 学校跡地の年間の使用料が150万という話があり躊躇する。何とかならないのか。
- ◇ 廃校跡利用の優先順位は、地元の活性化のために地元で利用されるというのが最優先で進めており、その次が民間企業等への譲渡である。地元で利用される際の使用料等については確認する。

4 その他

《要望等》

- ◆ イノシシ、シカなどの鳥獣被害については、市の補助金もあるが、サルの猿害対策についても考えて欲しい。
- ◆ 一番若いのが62歳、ゴールド集落の現状では、道路美化運動（環境整備）も限界がある。行政の支援は考えられないか。シルバーボランティアなどの活用も含めて。
- ◇ 危険な作業などは、無理をせず、建設維持課に相談されたら。また、建設業界でも、ボランティアで作業などしているので、地元の土木業者にお願いしてみたらどうか。
- ◆ 学校跡地の利用については、いろいろ考えてみても、ダメなんだろうと先に進まず、まともならなかった。前向きに検討してみたい。
- ◇ 地元で、利用計画など立てて、ぜひ構想を形にして、提案いただきたい。
- ◇ 今日の意見交換会は、皆さんの目が輝いていた。燃えている会場は、うらやましく思った。

※ 要望等の対応結果

廃校跡を利用する場合の年間使用料150万について、当局に確認したところ、地元で利用される際は、使用料は免除され、電気、水道等の光熱費の負担のみとなる。ちなみに150万というのは、通常の使用料である土地のみの評価額の5/100の額であるとのことであった。